

SNSチャットの会話における話題管理の日中対照 －話題の輻輳に注目して－

A comparative study in Japanese and Chinese SNS chat conversation:
Focus on topic convergence

楊 虹

YANG Hong

【キーワード】 LINE, Wechat, 話題管理, 輻輳, 相互行為

1. はじめに

日常のコミュニケーションのツールの一つとして、SNS文字チャットが広く利用されている。文字や画像の送受信ができ、必要に応じて通話もできるSNSチャットのアプリとして、日本ではLINE、中国ではWechatが最も多く利用されている。SNSチャットは、人間関係のつながりが強いメディアとして、日本人同士だけでなく、日本語母語話者と非母語話者による接触場面での使用も増え、異文化間の人間関係の構築や維持に大きな役割を果たしている。そのため、日本語母語場面のみならず、接触場面のSNSチャットの特徴の解明も必要だと考えられる。本研究では、異文化接触場面のSNSチャットのコミュニケーションを理解するのに資する対照研究という立場で、日本語母語場面と中国語母語場面のSNSチャットの会話を分析し、両場面の特徴の解明を試みる。

日本語母語場面のLINEのチャットについて、モバイルメディアという使用する媒体の影響を受け、話題の輻輳という音声会話とは異なる特徴が指摘されている。話題の輻輳についての研究は、PCを使用したIRC (Internet Relay Chat, 以下ではPCチャットとする) を対象とした研究にさかのぼることができる (Werry1996, 三浦・篠原 2002, 2006, 小倉・石崎 2002, 水上・右田 2002)。輻輳状態が会話の参加者に大きな認知的負荷を与えるため、参加者は自発的にその負荷を軽減し対処するという (三浦・篠原 2002)。三浦・篠原 (2006) では、実験でのチャットの会話で輻輳が生じた場合、発話が有意に短くなると報告している。一方でLINEチャットの研究では、輻輳に言及があったものの、輻輳の生起から終了まで詳細に分析した研究は管見のかぎりない。

中国語母語場面のWechatのチャットについて、相互行為の観点からの研究が近年増えている (Qiu, Chen & Haugh2021, 儲 2022) もの、からかい等特定のコミュニケーションに焦点を当てた研究に限られ、話題の輻輳に焦点を当てた研究は見られない。高い認知的負荷をもたらす話題の輻輳に参加者はどのように対処し話題を管理するか、異なる母語話者による対処の仕方の違いがないかなどの実態の解明は、異文化接触場面のチャットにおける会話参加者の相互行為の特徴の解明につながると考えられる。そこで本研究は、日中それぞれのSNSチャットにおける話題管理の一つとして話題の輻輳に焦点を当てて分析することにより、両場面におけるSNSチャットという媒体を介したコミュニケーションの特徴の一端を明らかにする。

2. 先行研究

2.1 SNS文字チャットの特徴

2.1.1 日本語LINEのチャットについて

LINEチャットの会話は、送受信のモードと同期性、記録性という 3 つの媒体特性の影響を受け、音声会話とは異なる特徴が見られる。まず送受信のモードについては、LINEは、入力された文字や画像といった視覚情報が伝達されるため、音声（対面）会話の場合に伴うパラ言語・非言語情報の伝達は欠如する。それらを補う手段として、絵文字や顔文字等で笑いを表現したりした工夫が見られる（岡本 2016, 森本 2016, 他）。

次に送受信の同期性については、同期的である音声会話と異なり、LINEは、ほぼ同期から非同期まで状況によりさまざまであるが（岡本・服部 2016）、完全な同期にはならない（倉田 2018）。こういったシステムの特性により、LINEの会話には、非常に速い速度でやり取りされる場合に隣接ペアが隣り合わないということが起こり、複数の話題が同時並行的にやり取りされるという現象が見られる（西川・中村 2015, 倉田 2018, 三宅 2019, 楊 2022）。

最後に記録性について触れる。記録性を持たない音声会話と大きく異なり、LINEでは、やり取りがログ画面に記録され、時間が経過してからでもさかのぼって確認することができる。そのため、話題が輻輳した場合でも会話が問題なく遂行され、また一旦途切れた会話がスムーズに再開されることもあるという（西川・中村 2015, 楊 2022）。

以上、音声会話と比較して、LINEというメディアを用いた会話の特徴を概観してきた。次に中国語Wechatの会話についての先行研究を概観する。

2.1.2 中国語Wechatのチャットについて

楊（2023）は、中国語母語場面のWechatコミュニケーションに関する研究を概観し、Wechatコミュニケーションについての研究は、アンケート調査やインタビューによる調査が多く、チャットのやり取りの履歴そのものをデータとしたコミュニケーションの実態を分析する研究が少なく、今後期待される研究分野であると指摘している。

Wechatコミュニケーションの研究においては、文字表記や非規範的な表現、絵文字やスタンプなど様々なビジュアル表現が注目されている。ビジュアル表現の使用において、Wechatの使い手は、文字と様々な形式の視覚的表現のバランスに配慮し、話題によって使わない場合も含めて話題との適合性に配慮し、また会話の展開によって使い分けをするといった配慮を行うという（Wang2019）。

Wechatの送受信のモードについては、文字とビジュアル表現といった視覚的モードのほか、音声メッセージを用いた聴覚モードの多用が中国語母語話者のWechat使用の特徴の 1 つとして挙げられる。王・董（2017）、鄭・董（2023）は、音声メッセージの使用についてアンケートやインタビューによる調査の結果、大学生には受信者への配慮から文字モードを選択する傾向があること、また若い世代においても、音声モードを完全に排除せず、相手との関係性や状況に

応じて、送信モードの選択または切り替えを行うといったことを指摘している。

Wechatチャットを相互行為の観点から分析した研究は、多人数グループのチャットを対象としたものがほとんどであり、研究の関心はからかいといった特定のコミュニケーションに向けられている (Qiu, Chen & Haugh2021, 儲 2022)。1 対 1 の日常会話を取り上げたものは見られず、Wechat会話のやり取りの特徴や話題の輻輳に言及した研究はない。

2.1.3 SNSチャットの日中対照研究

SNSチャットの日常会話の日中対照は、管見の限り楊ら (2018) しかない。楊ら (2018) は、日本語と中国語のチャットの文字テキストを分析し、両言語の会話の特徴の違いの解明を試みた研究である。若い女性の友人同士の 1 対 1 のチャットの会話履歴、日中それぞれ 6 組をデータとして、メッセージを(1)相づち的表現・定型表現、(2)意見・心情、(3)事実・行動・状態の 3 つに分類し、それぞれの割合を分析した。その結果、日本語母語場面と比べ、中国語母語場面のチャットには、情報交換的側面の強い (3) 事実・行動・状態に関するメッセージがより多く見られたと報告した。楊ら (2018) は実際の会話のやり取りから、日本語と中国語のSNSチャットにおけるコミュニケーションスタイルを、談話分析の手法を用いて定量的に分析し、両場面の相違点を指摘した実証的研究で、日中それぞれの母語話者のSNS コミュニケーションスタイルを理解するのに役立つ研究ではあるが、話題の管理については言及していない。

2.2 話題の輻輳について

音声会話では、同時に複数の話題を記憶して対応することには認知的負荷がかかるため、複数の話題が同時並行的にやり取りされる話題の輻輳が頻繁に起こることは考えにくい。一方で、発話が記録され、視覚情報として遡及的に随時確認できるLINEチャットの会話では、話題の輻輳は頻繁に起きる (中村・西川 2015)。オンラインチャットの会話における話題の輻輳についての研究は、匿名の参加者によるPCチャットを対象とした研究にさかのぼることができ、多人数の会話がいくつかの小グループに会話が分裂していくという現象が指摘されている。画面上の文字記録を頼りに、参加者は異なる話題を混同せずに管理することが可能であり、話題の輻輳が頻繁に見られるという (Werry1996, 三浦・篠原 2002)。

PCチャットの研究における話題の輻輳について、小倉・石崎 (2002)、水上・右田 (2002)、三浦・篠原 (2006) がある。小倉・石崎 (2002) は、実験環境で収集した 2 人または 3 人のチャット対話における発話間の意味的なつながりを分析し、2 人対話の発話間距離平均が 1.5 発話、3 人対話では 2.1 発話であると報告し、隣接する発話同士が必ずしも意味的なつながりを持たないということを指摘した。小倉・石崎 (2002) で挙げられている 2 者間のチャットの会話例 (p.15) を見ると、相手の直前の発話ではなく、より前の発話に反応したことがあるが、同じ話題を巡った発言である。本研究では、このような場合は、隣接ペアが隣り合わない現象ではあるが、話題の輻輳としては捉えない。また、水上・右田 (2002) は、PCチャットの会話構造を分析し、

話者交替の際に生じた擬似的な割り込みにより話題の輻輳が生じると指摘している。チャットでは、話者交替において、相づちはうまく作用せず、またターンの保持を意図した分割送信も発話の割り込みを防げないという。さらに、三浦・篠原(2006)はチャットにおける輻輳状況が発話行動に与える影響を実験で調べた結果、2者間のチャットに発話間隔の狭いディストラクターによる輻輳が生じた場合、発話長が有意に短くなり、輻輳は「他の人の発言が気になった」等主観的認知に影響を及ぼしていると報告している。チャットの参加者は話題の輻輳によって発話のペースが乱され、輻輳に対処し行動を調整していることが示唆された。

LINEチャットにおける話題の輻輳の現象に触れた研究に、西川・中村(2015)、倉田(2018)、楊(2022)がある。西川・中村(2015)はLINEチャットの特徴の一つとして輻輳を挙げており、輻輳が生じた場合、片方がいくつかの話題を同時に送り、もう片方が輻輳した話題の順番に沿う形で返信していくことが多いが、順番通りに返信しない場合もあり、また順番に返信したあと、古い話題に対して補足内容を送る場合があると指摘している。また、西川・中村(2015)は、輻輳の継続による認知的負担について言及し、多人数チャットの場合は、輻輳の継続は返信順で補っていたレイアウトの効果が低減するため、一対一の場面では多くみられると述べている。ただし、西川・中村(2015)は観察に基づく記述で、輻輳について様々なパターン¹が考えられるが、それら網羅的に分析しているものではない。倉田(2018)は、LINEにおける相づちの働きを分析し、連鎖が複雑な箇所における「非直後の相づち」の特徴を報告している。話題の輻輳に言及してはいないものの、話題の輻輳と捉えることができる「連鎖が複雑な箇所」の会話例が示されている。また、チャットに見られる感動詞「あ」の働きを分析した楊(2022)は、話題のつながり方の観点から、「あ」は「話題が輻輳している場面における切り替えの装置としての働きを持つ」(p.80)と指摘している。

以上まとめると、PCチャットについては、量的な分析を中心に話題の輻輳の解明を目指した研究が見られ、媒体の特性の影響を受けるため輻輳が避けられないこと、輻輳は参加者によって認知され、それに対処するため発話を調整することなどが明らかになっている。一方、SNSチャットについては、輻輳に言及した研究はあるものの、話題の輻輳そのものに焦点を当てた研究はない。

3. 研究目的と方法

3.1 本研究の目的と課題

本研究では、日本語母語場面と中国語母語場面のSNSチャットの会話における話題管理の一つとして、話題の輻輳に焦点を当て、探索的な分析を通して、日、中のSNSコミュニケーションの特徴の一端の解明を目指す。具体的には、以下4つの課題を設け分析する。

課題1 輻輳する話題間の関連性は、どのようなものか。

1 例えば、片方ではなく、双方が異なる話題を同時に送る等が予測される。

課題 2 輻輳はどのように生起するか。

課題 3 輻輳はどのくらい継続するか。

課題 4 輻輳はどのように終了するか。

3.2 データ

データは、日、中それぞれの母語場面の 1 対 1 の友人同士の LINE または Wechat のチャットの会話履歴であり、日、中それぞれ 12 組である。参加者は 18 歳以上 20 代までの若い女性で、主に大学生、大学院生であるが、専門学校生、社会人も含まれる。平均年齢は、日本語母語話者は 19 歳（18 ～ 21 歳）で、中国語母語話者は 23 歳（18 ～ 28 歳）である。協力者に直近からさかのぼり 300 送信分以上のチャット履歴の提供を依頼し、収集した²。データはすべて自然会話であり、会話の状況や、話題のコントロール等は一切行っていない。会話が行われた時期は、2016 ～ 2024 年である。

3.3 分析方法

分析対象は、日、中それぞれ 3600 送信分（300 / 組、12 組）である。

話題の輻輳を、「進行中の話題が継続している間に、進行中の話題の焦点と異なる事柄についてのメッセージが見られ、かつそのメッセージの受け手からなんらかの反応が見られた場合、話題の輻輳が生起した」と定義し、本定義に基づき話題の輻輳が生起した場面を認定した。

実際に見られた話題の輻輳の例を挙げる。会話例 (1) では、「昼ご飯」（話題 1）と「必修科目」（話題 2）という 2 つの事柄に関するやりとりがほぼ同時並行的に行われている。2 行目で七海の「どこで食べるのー？」により、話題 1 が継続され、さらに 3 行目の質問により新たな話題「必修科目」が導入された。それに対して、加奈子は 4-5 行目で、必修科目について反応を示して、「必修科目」も会話の話題となる（楊 2011）。このように話題 1 → 話題 2 → 話題 1 → 話題 2 とチャットの会話は複数の話題の間で行き来し、複数の話題が同時並行的にやり取りされ、話題の輻輳が見られた。以下では、会話例 (1) を適宜参照しながら、課題ごとの分析方法を述べる。

3.3.1 課題 1 輻輳する話題間の関連性

輻輳する話題間の関連性については、大きく「関連」と「非関連」に 2 分する。新たな話題（話題 2）と進行中の話題（話題 1）との間の会話の内容上のつながり、または発話間のつながりの有無で判断をする。本研究の「関連」と「非関連」は、対面の話題のつながり方について分析した南（1971）や楊（2006）の「連続型」「非連続型」、LINE のチャットの会話を分析した楊（2022）の「話題継続」「話題断絶」の定義と基本的に同じものである。会話例 (1) の場合、話題 1 と話題 2 の間に内容上も、発話間にもつながりが認められないため、非関連と分類される。

2 本研究のデータは、収集方法等について研究倫理審査を受けており、個人情報に関しても細心の注意を払っている。また、協力者全員にデータ提出時に書面にて承諾書を提出してもらった。

一方、後掲会話例(4)では、話題1と話題2はそれぞれ「楽しみはホッケーの観戦」、「カーリングの体験」であり、2つの話題の間に「カナダでのウィンタースポーツ」という共通点があり、関連があると分析される。

会話例(1)【日】 話題1：昼ご飯，話題2：必修科目³

			話題1	話題2
1	10:28	加奈子	昼ごはん何食べよーかな笑	○
2	10:30	七海	どこで食べるのー？	○ →
3	10:30	七海	七海たちって必修科目なんだっけ？	○
4	10:31	加奈子	えわかんない！	○
5	10:31	加奈子	今日のやつ？	○
6	10:31	加奈子	マックかな～	○ ←
7	10:31	七海	いや全体的に！	○ ←
8	10:31	七海	いいね！	○ ←
9	10:31	加奈子	んー	○
10	10:31	七海	○○ {科目名} と○○ {科目名} だけ！	○
11	10:32	加奈子	全然わかんない笑	○

3.3.2 課題2 輻輳はどのように生起するか

進行中の話題(話題1)と異なる話題(話題2)の導入発話によって話題の輻輳が生起する。そこで、話題2の導入発話を分析することにより輻輳がどのように生起するかについて明らかにしていく。

まず話題2の導入発話の導入者を分析し、導入者が話題1と同じ参加者か否かで2つに分類する。次に、導入発話の機能を分析し、当該発話が受け手になんらかの反応を要求するか否か、つまり相手の発話に強い制約を持つか否かという観点から分析する。具体的には、導入発話が情報要求や確認要求、行為要求等相手の反応に「極めて強力に制約を課することができる」隣接ペアの第1成分(高木・細田・森田 2016)とみなすことのできる発話と、情報提供や意見感想等受け手の反応への制約が弱いものに分けられると考えられる。本研究では、前者を「要求型」、後者を「提供型」と分類し分析する。

3.3.3 課題3 輻輳はどのくらい継続するか

輻輳がどのくらい継続するかについては、話題の輻輳が生起してから解消するまでのやり取り(送信)の回数を分析し、それを継続長とする。前掲会話例(1)では、3行目に話題2が導入されることにより話題の輻輳が生起した。9行目以降は、すべてのメッセージが話題2についてであり、話題1は8行目で終了する。したがって、3行目に2つ目の話題が導入され、8行目まで話題1と話題2という2つの話題が継続しているため、会話例(1)における話題の輻輳の

3 ローマ字を含め、参加者は全て仮名で表示している。個人情報などプライバシーにかかわると思われる箇所は「○ ○」に置き換え、{ } で適宜説明を加える。斜め下向きの「→」は、チャットの会話で2つの話題の間を行き来していることを示す。

継続長は、3-8 行にわたる 6 送信（□で囲っている部分）である。

3.3.4 課題 4 輻輳はどのように終了するか

輻輳の終了については、①輻輳が終了した後の話題の推移がどのようなものか、②輻輳が終了し先に終了した話題について、話題終了表示が見られるか、という 2 点について、分析を行う。

①話題の推移については、輻輳が終了した後の会話の展開から「話題 1 に戻る」「話題 2 に移行」「両方が終了」に分類する。前掲会話例 (1) の場合は「話題 2 に移行」に分類される。「両方が終了」には、以下の 2 つの場合を含む。

- a) 輻輳終了後に残っている話題について、片方の参加者による 2 送信以下の話題終了表示が見られ、相手からはスタンプ以外の反応が見られない場合（後掲会話例 (4) を参照）
- b) 輻輳終了後に残っている話題について、片方の参加者だけによる話題終了表示以外の 1 送信のメッセージが見られた場合⁴

②先に終了した話題についての話題終了表示の認定は、楊（2007）が音声会話における話題終了行動として挙げたものを参考に、①相づち、②まとめや評価、挨拶表現、③くり返し、④笑いを示す表現（(笑)、www、ははは等）、⑤スタンプや絵文字、顔文字という 5 つを話題終了表示とする。④、⑤については、様々な発話に「笑」や絵文字が付加されるため、単独での使用、または①から③のいずれかに付加するものは「話題終了表示」とし、これら以外は対象としない。

①から⑤のいずれか 1 つが見られた場合は「話題終了表示」が生起したと分析し、輻輳の場面数全体における生起率を分析する。また、輻輳におけるビジュアル表現等マルチモーダル分析の観点から、④と⑤のいずれか 1 つが見られた場合は、「SNS特有の表現」が生起したとし、輻輳の場面数全体における生起率を分析する。

4. 結果と考察

日中それぞれに見られた話題の輻輳の生起場面数を見ると、日本語では 31 であるのに対し、中国語では 16 にとどまり、中国語では話題の輻輳の生起頻度が比較的低いことがわかる。以下 4.1 では課題順に分析の結果を示し、4.2 では会話例を挙げて日中両場面の特徴を考察する。

4.1 結果

4.1.1 輻輳する話題間の関連性

まず、輻輳する話題間の関連性を見ると、非関連話題が多かった（表 1 参照）。この傾向は、中国語においてより強く見られる。

4 1 例のみ見られた。待ち合わせの相手を「みつけた」と送信し、そのまま会話が終了した例である。待ち合わせの相手と合流したことにより、話題が終了しただけでなく、会話そのものが終了したものである。

表 1 輻輳する話題間の関連性

	日	中
非関連	17 (55%)	10 (63%)
関連	14 (45%)	6 (38%)
計	31 (100%)	16 (100%)

話題の関連性によって、話題の導入発話の働きや終了表示の使用等が異なる（楊 2006）ため、課題 2 以下の分析結果では、話題の関連性別に分析した結果を示す。

4.1.2 課題 2 輻輳の生起

輻輳の生起については、話題 2 の導入者及び導入発話の分析を行った。

まず、話題 2 の導入者が話題 1 と同一の参加者か否かについて見ると、非関連の話題の場合、日中では同じ傾向が見られ、話題 1 の導入者とは異なる参加者が話題 2 を導入しているものが多く見られた。ただし、その傾向は日本語母語場面ではより顕著である。関連のある話題については、日中では異なる傾向が見られ、日本語では異なる参加者による導入が 9 割近く占めるのに対し、中国語では 3 割台にとどまる（図 1 参照）。

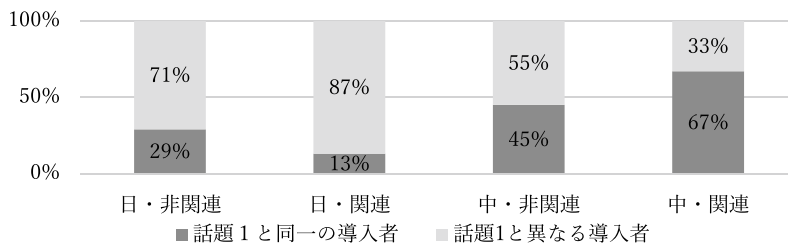


図 1 話題 2 の導入者

次に、話題 2 の導入発話の機能を分類した結果を見ると、日本語と中国語のいずれにおいても提供型の導入発話が高い割合を占めることがわかる。ただし、話題の関連性から見ると、日本語では、関連の話題において提供型の導入が顕著に多く見られるのに対し、中国語では非関連のほうに提供型の導入発話が顕著に多く見られ、関連の場合は偏りが見られない。

表 2 話題 2 の導入発話の機能

	日		中	
	非関連	関連	非関連	関連
要求型	47%	40%	36%	50%
提供型	53%	60%	64%	50%

4.1.3 輻輳の継続

話題の輻輳が終了するまでのやり取りの回数、すなわち輻輳の継続長の分析結果について見ると、日中両場面では共通して、非関連の話題より関連する話題の輻輳の送信数が多く、輻輳のやり取りがより長く続く傾向が見られた（表 3）。

表 3 輻輳の継続長（単位：送信数）

		平均値	最小値	最大値	標準偏差
日	非関連	5.6	2	19	4.3
	関連	10.8	2	43	12.6
中	非関連	7.5	3	28	7.6
	関連	10.5	2	36	13.1

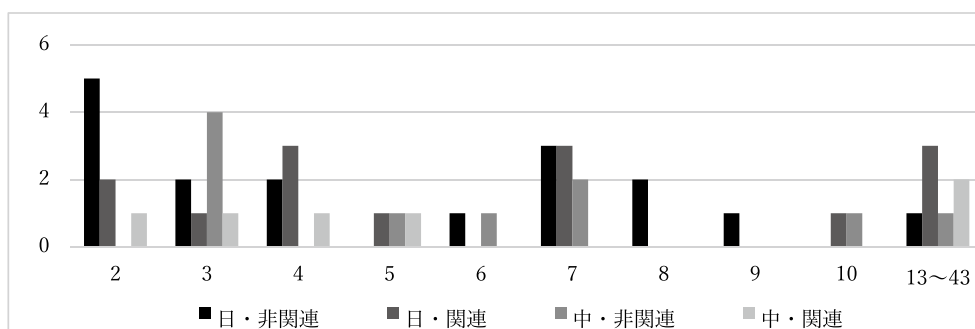


図 2 輻輳の継続長ごとの生起数⁵

ただし、輻輳の継続長にはばらつきが大きかった。輻輳の継続長ごとの生起数を示した図 2 を見ると、もっとも頻度が高かった継続長は 2, 3, 7 であり、ほとんどの輻輳は 10 送信以下で終了することがわかる。

⁵ 10 を超えた場合は、生起数そのものが少ないため、1 つにまとめて示している。

4.1.4 輻輳の終了

まず、輻輳終了後の話題の推移について見ると、日中両場面では、共通して話題2に移行していく場合がより多く見られた。異なる傾向としては、日本語では、非関連話題の輻輳終了後に、「両方が終了」が2番目に多く見られた（29%）ことが挙げられる。

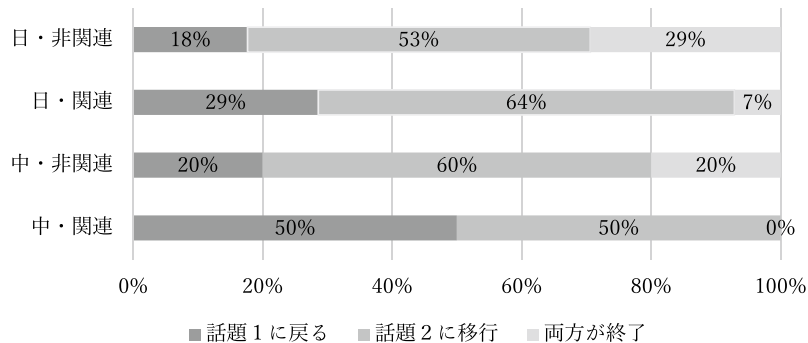


図3 話題の推移

次に輻輳が終了する際に先に終了した話題の終了表示の生起率の分析結果を図4に示す。日本語では、話題終了表示の生起率は関連性にかかわらず、いずれも約6割の生起率が見られたのに対し、中国語では、非関連が45%、関連では33%にとどまり、いずれも比較的低かったが、関連のある話題の輻輳ではさらに低いことがわかる。また、笑やスタンプ、絵文字等のSNS特有の表現については、日中ではほとんど差がなく、いずれも低かった。

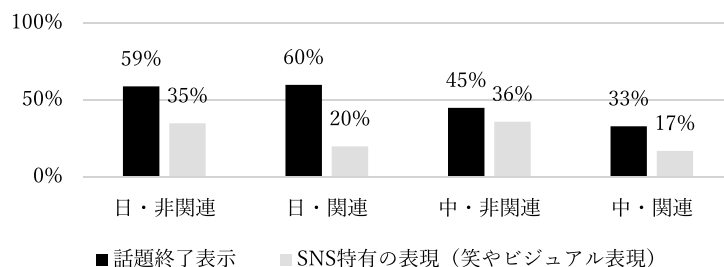


図4 輻輳終了時の話題終了表示の生起率

4.2 考察

日本語母語場面では、異なる参加者の異なる話題導入による話題の輻輳が多く生起する傾向が見られ、後で導入された話題が進行中の話題と関連のあるものもあれば、全く関連のないものもあり、どちらかに偏る傾向は見られない。関連のある話題では、相手の次の発話への制約

があまり強くない提供型発話が多く見られる。すなわち話題の輻輳は進行中の話題の焦点から離れるものの何らかの関連性のある情報提供や、意見共有をきっかけに生起する。そして、話題の輻輳がどのように終了するかについて見ると、非関連の輻輳は、比較的短いやり取りで終了する傾向が見られたが、関連のある話題の輻輳では長いやり取りを経て終了するものもあり、ばらつきが大きかった。輻輳が終了後、会話は後に導入した話題 2 に移行していくものが多く、また先に終了した話題について終了表示が見られるものが多いといった傾向が見られた。

一方、中国語母語場面では、非関連の話題導入による輻輳が多く生起する傾向が見られる。進行中の話題との関連性によって、輻輳の生起のし方が異なることがわかり、非関連の場合は、進行中の話題の導入者ではない参加者による提供型の導入発話が多く見られ、関連のある話題の場合は、進行中の話題の導入者自身が異なる話題を導入するが多かった。そして、輻輳が生起した後の会話の流れにおいては、日本語と同じく非関連の輻輳のほうが比較的早く終了すること、後に導入した話題 2 に移行していくものが多かったことがわかった。ただし、その際に先に終了した話題の終了表示は 5 割未満と比較的低いといった傾向が見られた。

以上をまとめると、日中両場面における話題の輻輳において、主な相違点は下記 2 点である。

日本語母語場面と比べ、中国語母語場面では、1 非関連の話題の輻輳の生起頻度が比較的高く、それが主に相手への情報共有により行われる、2 話題の輻輳が終了する際に先に終わった話題に終了表示が見られない場合が多く、特に関連のある話題の輻輳の場合はより顕著だった。以下では実際のチャットの会話例を挙げながら、両場面の話題の輻輳の特徴を考察していく。

4.2.1 日本語母語場面における話題の輻輳

日本語母語場面では、話題転換箇所において非関連の話題の輻輳が生起しやすいという特徴が見られた。先行話題が一段落し、新しい話題を導入した際に、参加者がそれぞれ異なる話題を導入したため、一時的に 2 つの話題が同時に保持され、輻輳が生起する場合もあれば、進行中の話題について片方がくり返し等話題終了表示を送信しているのと同じ時間に、もう片方が新しい話題の導入発話を送信したため話題の輻輳が生起する場合もある。いずれも会話参加者それぞれが異なる話題についてのメッセージをほぼ同時に⁶ 送信したため生起したものと推察される。このような輻輳は非対面会話における話者交替の際に生起した擬似的な割り込むと指摘されている（水上・右田 2002）。

会話例（2）はその 1 例である。1-3 行目は先行話題（1 か月先の武道館ライブ）についての発話であり、話題はここで終了した。その直後に茉奈が「明日何時にする？」（4）と尋ね、さゆりからは「地団駄ダンスきいた？」（5）と 4 行目の発話には関連のない話題 2 の導入発話が見られた。ここでは、1 行目の前の 4 送信を含めて、同じ 13:02 の 1 分間に 9 送信が見られ、LINE

6 LINE の画面では分刻みで時間が表示されるため、同じ時間表示でも 60 秒の幅があり、厳密に言えば、同じ時間が表示されていても、わずかな時間差かどうかは明らかでない。この限界を踏まえたうえで、話題 2 の導入発話が直前の相手の発話と同じ時間に行われたものを確認した結果、5 場面あった。

では秒単位で送信時間の確認ができないため断言はできないが、4 と 5 の送信が間隔を空けずにされていた可能性が高いと推測される。5 に対する茉奈の 6 行目の返答は最小限の応答にとどまり、続いてさゆりも自ら導入した話題に戻ることなく、茉奈の 4 行目の質問に回答し、この後話題 1 のやり取りのみ見られる。このように擬似的な割り込みによりチャットの参加者がそれぞれ異なる話題を導入し話題の輻輳が生じた場合、短いやり取りを経て直ちに 1 つの話題にやり取りが集中し、輻輳が終了するという特徴が日本語母語場面では見られた。

会話例 (2) 【日】 話題 1：明日の予定、話題 2：地団駄ダンスの歌⁷

				話題 1	話題 2
1	13:02	茉奈	初めての 1 人参戦		
2	13:02	茉奈	どきどき		
3	13:02	さゆり	フー		
4	13:02	茉奈	明日何時にする？	○	
→5	13:02	さゆり	地団駄ダンスきいた？		○
6	13:03	茉奈	きいた		○
7	13:03	さゆり	なんじでも	○	
8	13:03	さゆり	オープン	○	
9	13:03	茉奈	キメふか	○	
10	13:03	茉奈	るか	○	
11	13:03	茉奈	で、夜ご飯食べないで帰ろ	○	

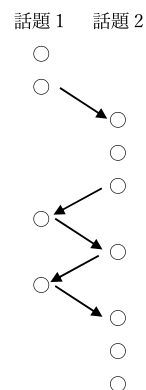
上記会話例 (2) では、話題 2 は展開されずに終わったため、話題終了表示が見られない。一方である程度のやり取りを経て 1 つの話題が終了する場合、日本語では話題終了表示が見られるものが多い。相手の導入した話題に反応を示しつつ、自ら異なる話題を導入したため話題の輻輳が生じた場合、相手の話題について評価表現等で話題終了表示を送ることによって、相手への配慮を示す傾向が見られた。

会話例 (3) ((1) の再掲) は上記の特徴が表れている例である。七海は、相手の導入した話題 1 について、質問することによって話題化した直後に、新たな話題「必修科目」を導入した。それに対して、加奈子は 4-5 行目で相手の導入した話題に対応してから、自身の導入した話題に戻る (6)。ここでは、チャットの流れが話題 1 → 話題 2 → 話題 1 → 話題 2 → 話題 1 と行き来し、2 つの話題が同時並行的に展開され、参加者双方が相手の導入した話題に積極的に反応を示している様子が見られた。最終的には「いいね！」(8) という評価的表現で話題 1 が終了し、会話は話題 2 に推移していく。このプロセスにおいて、互いに相手の話題に興味を示し、終了する話題には終了表示が見られるなど、参加者の双方が配慮しつつ協働的に会話を展開している様子が観察された。

7 「→」は話題 2 の導入発話を示す。発話間の罫線は話題の境界を示す。後掲会話例も同様である。

会話例 (3) 【日】 話題 1：昼ご飯，話題 2：必修科目

- | | | | |
|----|-------|-----|----------------------------|
| 1 | 10:28 | 加奈子 | 昼ごはん何食べよーかな笑 |
| 2 | 10:30 | 七海 | どこで食べるのー？ |
| →3 | 10:30 | 七海 | 七海たちって必修科目なんだっけ？ |
| 4 | 10:31 | 加奈子 | えわかんない！ |
| 5 | 10:31 | 加奈子 | 今日のやつ？ |
| 6 | 10:31 | 加奈子 | マックかな～ |
| 7 | 10:31 | 七海 | いや全体的に！ |
| 8 | 10:31 | 七海 | いいね！ |
| 9 | 10:31 | 加奈子 | んー |
| 10 | 10:31 | 七海 | 〇〇 科目名 と〇〇 科目名 だけ！ |
| 11 | 10:32 | 加奈子 | 全然わかんない笑 |



次に日本語母語場面で半分近く見られた関連のある話題の輻輳を検討する。関連のある話題の輻輳は、提供型の導入発話が多く見られる。相手の導入した話題に関連のある話題を導入し、その後は、参加者双方が互いに相手の導入した話題に反応を示すことにより、話題の輻輳が生起し、継続する。そのため、関連のある話題の輻輳は終了するまで比較的長いやり取りが継続する。

会話例 (4) では祐子の導入した話題 1「楽しみはホッケーの観戦」に関連して、Makoが話題 2「カーリングの経験」を導入したため、話題の輻輳が生起する。まず会話の流れを確認する。1-3 行目でカナダに留学中の祐子は話題 1「楽しみは来週のアイスホッケーの観戦」を導入した。受け手のMakoは、まず「へえー」(4) と驚きの反応を示してから、「うちも」と「も」を使い、相手の発話につながりを示しながら自らの経験（カーリングしたこと）を伝えた (6)。祐子は、アイスホッケーの観戦について、「やばばば」「まじでかっこいい」と楽しみの気持ちを伝え、「なんか」を送信した後、Makoの「カーリングした」ことに「え！」「やったの？！」と驚きの反応を示した。それに対し、Makoは、「生かっこよさそう」とアイスホッケー観戦について、相手の用いた語彙「かっこいい」を一部くり返して共感を示し、その後、「やったやったw」とカーリングの経験についての質問に返答した。それに対し、祐子が「すごええええ」「できるもんなのか」(13,14) と興味を示した。15 行目以降、Makoはカーリングの経験について語り、祐子は質問したり驚嘆したりして興味を示し、Makoの体験談をさらに引き出していく。「見てみたかった」という祐子の締めくくりの感想を受け、Makoは、「エンジョイしてそうでよかった😊」と自身の体験談から離れ、祐子の「楽しみはホッケーの観戦」に話題を戻した。そして、この評価的表現は、この話題の終了表示となり、42 で祐子は異なる話題を導入した。

会話例 (4) 【日】 話題 1：楽しみはホッケーの観戦，話題 2：カーリングの体験

				話題 1	話題 2
1	20:41	祐子	とりあえず今の楽しみは	○	
2	20:41	祐子	来週のアイスホッケー	○	
3	20:41	祐子	観戦	○	
4	20:41	Mako	へえー	○	
5	20:41	祐子	やばばば	○	
→6	20:41	Mako	うちも、カーリングしたわ	○	○
7	20:41	祐子	まじでかっこいい	○	○
8	20:41	祐子	なんか	○	○
9	20:41	祐子	え！	○	○
10	20:41	祐子	やったの？！	○	○
11	20:41	Mako	生かっこよさそう	○	○
12	20:41	Mako	やったやった w	○	○
13	20:41	祐子	すげえええ		○
14	20:41	祐子	できるもんなのか		○
15	20:41	Mako	バンクーバー五輪の会場で www		○
22 行省略					
38	20:44	祐子	みてみたかった笑		○
39	20:44	祐子	Mako のカーリング		○
40	20:44	Mako	エンジョイしてそうでよかった㊦	○	○
41	20:44	Mako	ww	○	
42	20:44	祐子	友達にさ		

会話例 (4) では、話題の輻輳が生起している間、参加者双方が互いに相手の話に興味を示し、質問や評価的表現を送り共感を示しつつ話題 1 と話題 2 の間を行き来している様相が見られる。情報提供等の提供型の発話による話題導入は、しばしば話題上の聞き手・話し手の役割交替を伴う (楊 2015)。会話例 (4) では、話題 1 の話し手祐子は話題 2 の聞き手となり、一方の話題 2 の導入者 Mako は話題 1 の聞き手から話題 2 の話し手へと役割が変わる。ここでは、Mako は最終的に話題 1 の聞き手役割の発話 (40) をすることによって、話題 2 についての語りは話題 1 に関連した自己開示 (植野 2012) としての語りであり、会話の話題そのものが話題 2 に移行することなく、祐子の導入した話題 1 は保持されているものであると相手に示し、会話の相手への配慮を示している。

4.2.2 中国語母語場面における話題の輻輳

中国語では、非関連の話題導入による輻輳が多く生起する傾向が見られるが、話者交替の際に生起した擬似的な割り込みによる話題の輻輳はほとんど見られない⁸。相手の導入した話題と全く関連のない話題を導入するものに、情報提供による導入発話が多く見られた。気づいたこと

8 話題 2 の導入発話と直前の相手の発話が同じ時間に行われたものは 1 場面のみである。

をすぐに相手と共有する、または今現在の状況を実況中継的にチャットで報告する、こういった積極的な情報の共有によって話題の輻輳が生起するという特徴が見られた。

会話例 (5) は非関連の話題の輻輳の一例である。玲玲と小佳は高校の同級生で現在異なる大学に進学している。話題 1 の導入者玲玲は、試験勉強の大変さを訴え、大学生なのに「今年高三だ」と自嘲のメッセージを送る (1)。相手の小佳はそれに反応し「良い専攻を選んだね」「毎年高三だ」とからかいのメッセージを送る (2,3)。その後すぐに帰宅途中であることを伝え (4,5)、関連のない話題を導入した。それを受けて玲玲は「ははははははは」と喜びを示し、「いいね」とポジティブな評価表現を送信し (6)、その後自らが導入した話題に戻り、会話における話題の輻輳は素早く終了する。中国語母語場面では、こういった実況中継的に今現在の状況を伝えるメッセージによる話題の輻輳は日本語母語場面と比べ多く見られる傾向がある。日本語母語話者の LINE チャットの会話を分析した楊 (2022) は、待ち合わせをする相手との会話中に相手を見つけたことを伝えることによって生起した話題の輻輳を報告しているが、日本語母語場面ではそういった現実世界での活動上言及する必要のある場面を除けば、実況中継的なメッセージの送信による話題の輻輳は少ない。

会話例 (5) 【中】話題 1：試験勉強が大変だ、話題 2：帰宅中⁹

			話題 1	話題 2
1	玲玲	12:16	今年我高三 [今年高三だ]	○
2	小佳	13:14	专业选的好 [良い専攻を選んだね]	○
3	小佳	13:14	年年念高三 [毎年高三だ]	○
→4	小佳	13:14	我回家了 [家に帰ることになった]	○
5	小佳	13:14	在我爸的小 car 上 [父の小さい car に乗ってる]	○
6	玲玲	13:20	哈哈哈哈哈回家了好耶 [はははははははは家に帰るいいね]	○
7	玲玲	13:20	我寻思我选的也不算什么烧脑专业啊 [私が選んだのはそんなにめっちゃムズの専門ではないと思うのに]	○
8	玲玲	13:20	其实没有社会学的话, 这个专业还是挺好学的 [社会学がなければ、この専攻はまあまあ易しいと思うけど]	○
9	小佳	13:23	哈哈哈哈哈你们专业都怎么活啊 [ははははははははあなたの専攻の人たちはどうやって生きてるの]	○

次は、関連のある話題の輻輳の特徴を検討する。関連のある話題の輻輳では、同じ参加者が話題 1 と話題 2 の両方を導入する場面が比較的に多く見られ、日本語母語場面とは異なる傾向が見られた。同じ参加者が自ら導入した話題の焦点をずらして関連の話題導入発話を行うもので、輻輳の場面において片方の参加者が続けて話題を導入し会話をリードしていく構図が見られる。これは中国語母語話者の「言いたいことを言いたいときに話す」という話題転換の特徴 (楊 2007) に通ずるものであり、音声会話で見られた会話のスタイルがチャットの会話でも観察されたと見えよう。以下では会話例を示しその特徴を考察する。

9 中国語の日本語訳を [] 内の網掛け文字で示す。中国語のニュアンスに応じて日本語訳に非規範的な話しことばを使う場合がある。

会話例 (6) では、話題 1 と話題 2 の導入者は静輝である。静輝はまず実家から研修先まで「列車で 24 時間もかかる」(1)、「高速鉄道だと 800 元もする」(2) と送信して、話題 1 を導入した。それに対して笑珂は「遠いね」と共感を示し、「飛行機は？」と代替の交通手段について質問した。それに対して静輝は「見てない」と返答した後、「人生ってやっぱりあまり期待しすぎてはいけない」「期待が外れたとき辛すぎる」(6-7) と話題 1 とは一見関係のないメッセージを送信した。しかし、後続の (10) を見ればそれは話題 1 とつながっていることがわかる。話題 1 は研修先への交通手段に関する話題であり、それをネガティブに捉えている静輝の気持ちが読み取れる。6-7 行目はそれらを一般化して抽象的な人生論に転換していく発話である。しかし受け手の笑珂は、話題 1 について「飛行機もチェックしてみるといい」と助言した (8) あと、6-7 行目の発話に理解の問題があることを示した (9)。すなわち 6-7 は修復の連鎖における問題源であり、9 は他者開始修復である (高木・細田・森田 2016)。そして就職先の都市とは異なる都市に研修に行くこと自体を予想外で期待外れだ (10) という静輝の説明、すなわち自己修復を受け、笑珂は「大丈夫」「人生いろいろ見て」と理解を示しポジティブな言葉をかける (11-12)。9 行目以降は話題 1 に関するメッセージが見られず、会話の話題は、話題 2 に推移していく。

会話例 (6) 【中】 話題 1：研修先への交通手段、話題 2：人生論

			話題 1	話題 2
1	静輝 19:28	从〇〇 {実家のある都市名} 去〇〇 {研修先} 要坐 24 小时的车 [〇〇から〇〇まで列車で 24 時間もかかる]		○
2	静輝 19:28	高铁要 800 {約 16000 円} [高速鉄道だと 800 元もする]		○
3	笑珂 19:29	好远 [遠いね]		○
4	笑珂 19:29	飞机呢 [飛行機は？]		○
5	静輝 19:30	没看 [見てない]		○
→6	静輝 19:30	果然人生不能有太多期待 [人生ってやっぱりあまり期待しすぎてはいけない]		○ ↘
7	静輝 19:30	期待落空的瞬间太难受了 [期待が外れたとき辛すぎる]		○ ↘
8	笑珂 19:31	可以看看飞机票 [飛行機もチェックしてみるといい]	○	
9	笑珂 19:31	啥意思 [どういう意味]		○
10	静輝 19:33	之前以为会顺利去〇〇 {就職先の都市名} [最初は順調に〇〇に行くと思っていたのに]		○
11	笑珂 19:34	没事儿 [大丈夫]		○
12	笑珂 19:35	人生多看看 [人生いろいろ見て]		○

会話例 (6) では話題の輻輳の終了時に、話題 1 に関する終了表示が見られないだけでなく、笑珂の助言または提案 (8) に対する返答もなかった。静輝は、自らが導入した話題が展開している最中に焦点をずらしたメッセージを送り、修復の連鎖を引き起こしたが、相手の笑珂は理解の問題を示しながらも逐次に反応し、会話に積極的に関わっている。中国語母語場面では、「言いたいことを言いたいときに話す」ことは、時には相手を振り回すことにつながりかねないが、気兼ねなく振舞える親しさの現れでもあると言えよう。

中国語母語場面と日本語母語場面で顕著に見られた相違点の1つは、話題終了表示の生起率である。話題の輻輳の終了はすなわち同時進行中の2つの話題のうち少なくとも1つを終了することである。中国語母語場面では、話題終了表示の欠如だけでなく、話題に関する質問への応答という隣接ペアの第2成分が欠如したまま話題の輻輳が終了する例も見られた。

会話例 (7) 【中】 話題1：怪しい皮膚科、話題2：ニキビの痕の治療

			話題1	話題2
1	珊珊	17:27	那家现在熏得可大 [そこは今大きくなって]	○
2	珊珊	17:27	做的 {1 行目打ち間違い (熏得) の打ち直し}	○
→3	XM	17:27	我这次是去整痘坑 [今回はニキビの痕の凹みの治療]	○
4	XM	17:27	脸上没痘了 [顔のニキビは消えた]	○
5	珊珊	17:27	都单独开诊所了在○○ {地名} [○○で独立した診療所を開いた]	○
6	XM	17:27	哦哦 [あー]	○
7	XM	17:28	我知道了 [わかった]	○
8	珊珊	17:28	哇 [わ]	○
9	XM	17:28	这个我也去过 [そこ私も行ったことある]	○
10	XM	17:28	之前我身上寻麻疹 [荨麻疹がでて]	○
11	XM	17:28	也有几年了 [なん年前になるけど]	○
12	XM	17:28	去哪拿的药 [そこで薬をもらったの]	○
13	XM	17:28	可贵 [めっちゃ高かった]	○
14	XM	17:28	俺奶俺俩 [おばあさんと2人で]	○
15	珊珊	17:28	那你是去做激光嘛! 这样的话, 是不是痘坑就平了啊 [じゃあ、レーザー治療なのね! そうすればニキビの痕の凹みが平になるの?]	○
16	珊珊	17:28	对!! [そう!!]	○
17	珊珊	17:28	他家就是可贵 [そこは本当にめっちゃ高い]	○
18	珊珊	17:29	而且还不让你搜出同款 [しかもネットで同じ薬を検索しても出てこない]	○
19	珊珊	17:29	要价特别贵 [値段はとにかく高い]	○
20	XM	17:30	头几年是身上寻麻疹去开药 (以下99文字省略) [最初の数年間は体に 荨麻疹ができて薬をもらいに行ってた (以下怪しい皮膚科にかかっ ていた時の体験を語る)]	○

会話例 (7) の直前では、XMにフェイスマスクの購入を頼まれた珊珊が怪しい皮膚科という話題を導入し、1-2行目までそのやり取りが続いた。3で、XMはニキビの痕の治療をする予定だと話題2を導入した。これにより話題の輻輳が生じた。珊珊は引き続き話題1についてのメッセージを送り (5)、それに対して、XMは反応を示した (6-7)。一方で、珊珊も話題2について反応を示し、「わ」と驚嘆の感動詞を送った (8)。続いて9-14で、XMは怪しい皮膚科にかかった経験を語りだした。その語りに対して、珊珊は、すぐには反応を示さず、まずは相手が導入した話題2「ニキビの痕の治療」について質問をしてから (15)、怪しい皮膚科についてのXMの意見に同意を示し (16-17)、さらにそれをサポート情報を提供し (18)、同じ意見をくり返した (19)。続いて、XMは珊珊の質問には応答せず、怪しい皮膚科にかかった時の体験を詳しく語る

(20)。参加者2人はこの後、33送信分において、交互に怪しい皮膚科にかかっていた時の体験を語り合った。

ここでは、話題の輻輳が生じた3-15行において、非常に早いペースでのやり取りが見られた。引用した部分より前のメッセージを含め17:27には12送信、17:28には11送信が見られ、参加者の双方がチャットに積極的に関わっていることがわかる。話題の輻輳の終了は、XMが自ら導入した話題2「ニキビの痕の治療」よりも相手が言及した「怪しい皮膚科」に関心を示し続け、話題2に関する質問に返答がないためであり、話題2の立ち消えによるものである。15行目のメッセージに対する応答が見られないのは、珊瑚が話題2に関する質問を送信した直後に話題1に関する複数のメッセージを続け送信したため、見逃されている可能性が考えられる。高速のやり取りで2つの話題を同時進行的に送受信していると、相手の発話を注意深く追いかけたり、スクロールアウトしているメッセージを改めて確認したりしなければ、相手の質問を見逃してしまい、話題の立ち消えが起こる可能性が高いことが示唆される。

5. おわりに

本研究では、SNSチャットにおける話題の輻輳に焦点を当て、輻輳する話題間の関連性（課題1）、輻輳の継続長（課題2）、輻輳がどのように生起し（課題3）、どのように終了するか（課題4）と探索的に4つの課題を設けて分析と考察を行い、日中両母語場面における話題の輻輳の特徴の解明を試みた。

分析の結果、日中両場面ともに話題の輻輳が見られ、話題の輻輳は、SNSチャットの普遍的特徴であることが明らかになった。輻輳する話題間の関連性や、輻輳のきっかけとなる話題導入発話者、輻輳が終了する前の話題終了表示の使用において、日、中では異なる傾向が見られた。量的な分析を踏まえ、会話の流れを質的に見た結果、日中それぞれに異なる特徴が見られた。日本語母語場面では、オンラインチャットという媒体の特性の影響によって、擬似的な割り込みによる輻輳が生起する。話題の輻輳が終わるまでのプロセスにおいて、互いに相手の話題に関心を示し、配慮するという特徴が見られた。一方中国語母語場面では、擬似的な割り込みによる輻輳がほとんど見られず、進行中の話題と関連しないが今現在の自分の状況を実況中継的に報告する発話による話題の輻輳が見られる。また、参加者が自らの興味や関心の赴くまま、会話の焦点をずらす発話をするにより話題の輻輳が生起するという特徴が見られた。さらに輻輳の終了に話題終了表示のないものが多く、場合によっては相手の質問に反応を示さずそのまま次の話題に移行する場面も見られた。音声会話における中国語母語話者の「言いたいことを言いたいときに話す」（楊2007）スタイルはSNSチャットの会話でも見られた。

本研究では、話題の輻輳の分析を通して、SNSチャットにおける日、中母語話者の異なる振舞いを明らかにした。ただし、本研究は、限られたデータを対象に話題の輻輳を探索的に分析したもので、安易な一般化は避けた。今後より多くのデータを収集し検証していく必要がある。また、話題の輻輳は、同期性の高い場面から非同期的な場面まで、さまざまな状況で起き

るため、今後は、会話の同期性の観点を取り入れて分析の精緻化を図りたい。さらに、日本語母語場面では、輻輳した会話の流れをわかりやすく示す相づち（倉田 2018）や感動詞「あ」（楊 2022）の働きが指摘されており、日中それぞれの場面における話題のつながりや会話の流れをわかるやすく示す手がかりの解明も今後の課題の一つとして挙げられよう。

謝辞

本研究は、JSPS科研費課題番号 21K00619 の助成を受けたものです。

【参考文献】

- 儲叶明（2022）「中国語オンラインチャットにおける『互怼（Hudui）』について：『叩き合い』を介した親密さを中心に」『ことば』43, 147-164.
- 倉田芳弥（2018）「LINEチャットの会話における相づちの働き－『機能』及び談話管理を巡る略的観点から－」『言語文化と日本語教育』53, 1-10.
- 南不二男（1981）「日常会話の話題の推移－松江テキストを資料として」『藤原与一先生古希記念論集「方言学論叢」Ⅰ』三省堂, 87-112.
- 三浦麻子・篠原一光（2002）「チャット・コミュニケーションに関する心理学的研究」『対人社会心理学研究』2, 25-34.
- 三浦麻子・篠原一光（2006）「チャットにおける輻輳状況が発話行動に与える影響－単一話題に関して複数会話が同時並行する場合－」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』8(1), 41-48.
- 三宅和子（2019）「LINEにおける『依頼』の談話的特徴を記述・分析する（1）－メディア特性とモバイル・ライフの反映を探る－」『文学論藻』93, 31-49.
- 水上悦雄・右田正夫（2002）「チャットの会話の秩序－インターバル解析による会話構造の研究－」『認知科学』9, 77-88.
- 森本祥一（2016）「メッセージングアプリの機能がコミュニケーションにおいて果たす役割に関する一考察」『情報科学研究所所報』86, 19-24.
- 西川勇佑・中村雅子（2015）「LINEコミュニケーションの特性の分析」『東京都市大学横浜キャンパス情報メディアジャーナル』16, 47-57.
- 小倉加奈代・石崎雅人（2002）「チャット対話の話題推移に関する特徴分析」『言語・音声理解と対話処理研究会』36, 13-19.
- 岡本能里子（2016）「雑談のビジュアルコミュニケーション－LINEチャットの分析を通して」村田和代・井出里咲子（編）『雑談の美学：言語研究からの再考』ひつじ書房, 213-236.
- 岡本能里子・服部圭子（2017）「LINEのビジュアルコミュニケーションースタンプ機能に注目した相互行為分析を中心に－」柳町智治・岡田みさを（編）『インタラクションと学習』ひつじ書房, 129-148.
- Qiu, J., Chen, X. & Haugh, M. (2021) Jocular flattery in Chinese multi-party instant messaging

- interactions, *Journal of Pragmatics* 178, 225-241.
- 高木智世・細田由利・森田笑 (2016) 『会話分析の基礎』 ひつじ書房.
- Tang, Y. (2021) (Mis)communication through stickers in online group discussions: A multiple-case study, *Discourse & Communication*, 15(5), 582-606.
- 植野貴志子 (2012) 「聞き手行動の社会言語学的考察－語りに対する聞き手の働きかけ」『日本女子大学紀要. 文学部』 61, 68-57.
- 王亦高・董骁 (2017) 「微信語言或文字發送形式對人際傳播的影響 (Wechat の音声または文字送信モードの対人コミュニケーションに及ぼす影響)」『東南傳播』 149, 1-3.
- Wang, Y. (2019) Culturally-embedded visual literacy: A study of impression management via emoticon, emoji, sticker, and meme on social media in China, *Proceedings of the ACM on Human-Computer Interaction*, Vol 3, No. CSCW, Article 68 (November 2019). 25 pages. <https://doi.org/10.1145/3359170>
- Werry, C.C. (1996) Linguistic and interactional features of Internet Relay Chat, in S. C. Herring (Ed.) *Computer-mediated communication: Linguistic, social and cross-cultural perspectives*, John Venjamins Publishing, 47-63.
- 楊虹 (2006) 「日本語母語場面の会話に見られる話題開始表現」『人間文化論叢』 8, 327-336.
- 楊虹 (2007) 「中日母語場面の話題転換の比較－話題終了のプロセスに着目して－」『日本語教育論集 世界の日本語教育』 17, 37-52.
- 楊虹 (2011) 「中日母語場面の初対面会話における話題開始の比較：参加者間の相互行為に注目して」『立命館言語文化研究』 22 (3), 185-200.
- 楊虹 (2015) 「初対面会話における話題上の聞き手行動の中日比較」『日本語教育』 162, 66-81.
- 楊虹 (2022) 「LINEチャットの会話における感動詞『あ』の分析」『鹿児島県立短期大学紀要 人文・社会科学篇』 73, 69-85.
- 楊虹 (2023) 「中国語Wechatコミュニケーションに関する研究動向の概観」『鹿児島県立短期大学紀要 人文・社会科学篇』 74, 1-18.
- 楊虹・他 (2018) 「メッセージングアプリを利用したチャットの会話の日中比較」『日語教育与日本学研究－大学日語教育研究国際検討会論文集 (2017)』, 112-118.
- 鄭丹丹・董珂含 (2023) 「移動互联時代的互動規則變遷：以微信聊天中文字選取為例 (モバイルインターネット時代の相互行為の規則の変化：WeChatチャットにおける文字の選取を例に)」『社会』 43, 138-172.